

イベントインフォメーション

仙台市ボランティア連絡協議会主催 アートカフェ

内容 年齢・性別問わずどなたでもご参加いただけます!

日時 ①10月11日(月)「絵手紙」
②11月10日(水)「クリスマスリース」
両日とも10:00~12:00と
13:00~15:00

会場 仙台市福祉プラザ4階
仙台市ボランティアセンター内
フリースペース



ボランティアフォーラム

内容 ボランティア団体、NPO、地区社協、施設、学校、企業等のさまざまな関係機関・団体が参加しています。出会いや情報が盛沢山です! また体験コーナーもあり、福祉やボランティアに気軽に参加できます!ぜひお越しください。

日時 12月11日(土)
13:00~15:30(開場 12:30)

会場 仙台市福祉プラザ2階
ふれあいホール・展示ロビー



平成30年度の様子

令和2年度の様子

青葉区ボランティアセンター

仙台市青葉区二日町4-3二日町分庁舎1階 / TEL 022-265-5260

若林区ボランティアセンター

仙台市若林区保寿院前丁3-1若林区中央市民センター別棟1階 / TEL 022-282-7971

青葉区宮城支部事務所

仙台市青葉区下愛子字観音堂27-1宮城社会福祉センター内 / TEL 022-392-7868

太白区ボランティアセンター

仙台市太白区長町南3-1-30南部アーチル1階 / TEL 022-248-8188

宮城野区ボランティアセンター

仙台市宮城野区原町3-5-20メゾン坂下1階 / TEL 022-256-3650

泉区ボランティアセンター

仙台市泉区七北田字道48-12 泉社会福祉センター内 / TEL 022-372-2603

社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会 **仙台市ボランティアセンター**

掲載記事に関するお問い合わせは仙台市ボランティアセンターまで

〒980-0022
仙台市青葉区五橋2丁目12番2号 仙台市福祉プラザ4階
TEL 022-262-7294 FAX 022-216-0140

▼ホームページはこちら
<http://www.shakyo-sendai.or.jp/>
仙台市ボランティアセンター



2021
Autumn
vol.11

仙台市ボランティアセンター広報誌

ぼらせん



かけすFes!防災料理教室の様子

震災の記憶と災害食 小学生に伝える料理教室



宮城学院女子大学栄養科の学生が中心となり、「食を通じて人々を笑顔に!」をモットーに活動する「Food and Smile!」。7月に北仙台小学校で開かれた地域交流イベント「かけすFes!」で、災害時にも作れる料理教室を開きました。

準備をするにあたり、10年前の東日本大震災を知らない小・中学生が当時の被災した状況を想像できるように荒浜小学校に勤務していた先生からお話を伺いました。

災害食は水や電気を使わずに作れ、洗い物を極力出さないことが大切です。さらに、非常時の食事だからこそ、栄養面やおいしさも必要です。コロナ禍の制約や設備状況も災害時を想定し、今回は小・中学生が食べやすい切り干し大根サラダと乾パンを使ったお菓子にしました。

かけすFes!当日は、小学生も「先生」として、来場したお客さんへ作り方やコツを伝えました。

TOPICS

特集

- 非常時こそ食で笑顔に
災害食の普及を目指す……………1-3
宮城学院女子大学
プリユスプレジャー
- 企業の社会貢献……………4
・幸せの黄金鯛焼き仙台市役所前店
・仙台おさかな普及協会
- 子どもの居場所づくり……………5
こども食堂COCOKU~RU
- 夏のボランティア体験会……………6
- ボランティアセンターからのお知らせ……………7
- イベントインフォメーション……………8

非常時こそ食で笑顔に 災害食の普及を目指す



かけすFes!防災料理教室の様子



かけすFes!当日の様子



かけすFes!当日に提供した災害食

震災の経験を原動力に、 災害時の食について発信する

Food and Smile!(FAS)で現在中心となるのは、小学校高学年の時に東日本大震災を経験した世代。防災料理教室を開き、災害時においしく栄養を摂れる「災害食レシピ」を広める活動をしています。

水や電気が使えない災害時にも簡単に作れるレシピを土台に、「備蓄のサンマの缶詰を活用してほしい」といった条件に応じてアレンジを加えます。災害時は質素な食になりがちですが、食品が不足し、強いストレスがかかる時だからこそ、栄養価が高く彩り豊かな「笑顔になれる料理づくり」を目指しています。

代表の熊谷萌さん(3年)は、震災時に食の不自由さを痛感し、「1枚のチョコレートがこんなにうれしいことや、高齢者が食べられないカップ麺を食べたことで体調を崩してしまったことが衝撃だった」と振り返ります。健康維持に貢献したいという思いで、食品栄養学

科での学びを元に自分にできることを模索しています。また、前年度代表の三浦絵里香さん(4年)は、震災時にあたたかい食事で笑顔になってほしいという思いから、活動に取り組んでいます。

活動では、小学生から高齢者まで幅広い世代に料理を教えています。子どもたちの場合は、安全確保のための工夫が必要です。高齢者の場合は、備蓄品は普段食べてはいけないものという意識が強いので、日常的に非常食の消費と購入を繰り返しながら備蓄品の鮮度を保つ「ローリングストック」の意味が伝わらず、料理教室で苦戦したこともありました。それでも年の離れた世代とのコミュニケーションを毎回楽しみながら、災害食の普及に努めています。

コロナ禍では、対面のイベントができないなどの制約もありますが、Web会議を活用し他大学とのコラボ企画を進め、今までにない試みにも挑戦中です。時代の変化に合わせた災害食の在り方を、これからも追究していきます。

ボランティア団体 プリュスプレジャーのご紹介

子どもたちが自由に楽しく 息抜きする“場”をつくる

北仙台小学校を拠点に活動する学校支援地域本部「リエぞん北仙台」での経験を通じ、集団行動が求められ、「息苦しさ」を感じる子どもたちがいることを目の当たりにしてきた陶山(すやま)まゆらさん。2020年にジジキッチン(子ども食堂)とかけすFes!を開催するボランティア団体「プリュスプレジャー」を立ち上げました。「落ち着いたら、ではなく今できることを」と、新型コロナウイルス感染症対策を講じ活動を続けています。

子ども食堂ジジキッチンは、「自由」と「自立」が名前の由来です。子ども食堂だからと身構えることなく、夜ご飯を友達どうしで食べてもらう「キッチン」として、昨年7月から月に一度開催しています。友達と夜に会う高揚感や、違う学年どうしで関わる開放感を味わってもらい、同時に夕食時に子どもを預か

ることで忙しい保護者にも一息ついてほしいといえます。

かけすFes!は小学生から地域の高齢者までをつなぐイベントです。仙台市社会福祉協議会の助成金を活用し、子どもたちが自ら取り組むお店屋さんや、3Dプリンターを活用した作品づくり、動画編集など体験型の出し物が並びます。ボランティアにはお母さん先生も参加しており、後日学校で子どもから「楽しかった」「また会おうね」と声をかけてもらう瞬間が何にも代えがたい喜びであり、活動の活力になります。

参加する子どもたちだけでなく、運営ボランティアも楽しく、適材適所で力を発揮できるよう各々の長所を見極めるのが陶山さんの役割です。

ジジキッチンやかけすFes!を通じて、子どもたちには教室や家庭以外の世界や価値観の違いなど多様性を知ること、心豊かに成長してほしいと考えています。ジジキッチンとかけすFes!の二本柱を軸に、活動をより活発化させるのが目標です。



おう こん 幸せの黄金鯛焼き 仙台市役所前店

やると決めたらすぐ行動！子どもたちに幸せな時間を贈る鯛焼き店

仙台の中心部で10年、できたての鯛焼きを販売している小田みどりさん。オープンから数年は、周囲を気にする余裕もなく、夢中で切り盛りしてきたといいます。そんな小田さんが子ども食堂に鯛焼きを送ろうと考えたのは、知人の「子ども食堂に毎月寄附をしている。」という一言でした。当たり前には話さず知人のさり気ない恰好良さに感銘を受けました。

「自分も寄附をして、子どもたちが鯛焼きを食べて笑顔になってほしい」と思った小田さん。そのためには、継続できなければ意味がないと考え、自分ができることは、一度に最大50個、1人で運営しているので、取りに来てもらえることを条件とすることにしました。しかし、寄附先をどうしたらよいか分からずにいると、お客さんから仙台市ボランティアセンターの情報を伺い、すぐに連絡をするとトントン拍子に話がまとまり、「子ども食堂COCOKU~RU」さんを紹介いただいたそうです。

今までの経験から味には好みがあるので、子どもたちが喜んで食べられるように7種類の鯛焼きを詰め合わせにしています。

現在、コロナ禍の影響は大きく、経営状況は厳しい状況にありますが、鯛焼きを買いに来て美味しそうに頬張る子どもたちの様子を思い描き、モチベーションを上げています。大変な時期だからこそ、助け合いの想いが強

まっています。

「おいしさを届けるのは、飲食店だからこそできる支援。一步を踏み出すことで助け合いができることを知ってほしい。やると決めてすぐ行動に」と話す小田さん。

「誰もがひもじい思いをしない世界を作るのが、昔からの夢」と今日も小田さんは鯛焼きを焼いています。



INFORMATION

幸せの黄金鯛焼き市役所前店に関するお問い合わせは

担当 小田 みどり

TEL 022-263-6323

仙台おさかな普及協会

8月5日(木)仙台市中央卸売市場で贈呈式が行われました。

6つの構成団体からなる「仙台おさかな普及協会」から、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、子どもの見守りや居場所づくりを行っている子ども食堂に、お魚を身近に感じてほしいと、鮭ほぐし瓶詰やさばの缶詰、魚肉ソーセージなど12種類の水産加工品を贈呈いただきました。



子どもの居場所づくり

学びを支える夕食と、「わがママを言える場所」を

ココク〜ル
子ども食堂COCOKU~RU(仙台市青葉区)

子ども食堂COCOKU~RUは、生活困窮者自立支援法の施行後、困窮世帯への学習支援の関心が高まってきた2015年に活動をスタートしました。みやぎ生協では、メンバー(組合員)の暮らしをより良くするための「学び」の活動がさかんです。さまざまな世帯の実情を学ぶ機会があったことをきっかけに、砂金(いさご)亜紀子さんが中心となり、学習支援とリンクする形で夕食提供の子ども食堂をスタートしました。食堂開催は50回以上、2020年6月からは、感染対策のためフードパントリーに切り替えて活動を継続中です。

また、大人が動きながらもボランティア活動ができるように夕食をつくることを決めました。

大切にしていることは、「子どもたちがメニューを決めること」です。自分たちで食べたいものを選び、わがママを言える場所でありたいと考えています。焼き鳥やタピオカジュース、ハ

ンバーガーなどのメニューが登場し、子どもたちを笑顔にできました。

子どもが「よく話すようになり、明るくなった」という話を聞いた時や、受験を終えて卒業した子が真新しい制服姿で訪ねて来た時は子ども食堂を続けていて良かったと思う瞬間です。

子ども食堂を運営するにあたり、多くの方々からの協力、支援を受けております。そのひとつが、幸せの黄金鯛焼き店からの鯛焼きの提供です。今は会食をしていないので、おうちでおいしく食べられるように、そして小田さんの想いが伝わるようにと、一個一個に食べ方のシールを貼って配っています。

ボランティアスタッフ同士のかかわりが長い分、チームワークも良く、それぞれができる時に無理をせず、息の長い活動をこれからも続けていきます。



INFORMATION

子ども食堂COCOKU~RUに関するお問い合わせは

担当 仙台市ボランティアセンター

TEL 022-262-7294

夏のボランティア体験会

五感を刺激する柔らかく優しい布のおもちゃを子どもたちへ

1982年、絵本屋さんで始まった森のおもちゃ図書館。旭ヶ丘市民センターを拠点に活動しており、まもなく40年を迎えます。

障害のある子どもたちが安全に遊べる布のおもちゃやタペストリーを、ボランティアが集まって制作し、県立こども病院や児童館などに貸出・寄付しています。回を重ねるうちに刺繍にも熱が入り、作品の繊細さにたびたび驚かされるといいます。

所持しているおもちゃは、オリジナルの布絵本や、音の鳴る手のひらサイズのぬいぐるみ、布団1枚分の綿を詰めた大きなへびのぬいぐるみなど、多種多様です。ポケットが付いていたり、中に入ることができたりと、さまざまな工夫がこらしてあります。「自分たちも楽しむことが、長続きの秘訣です」と代表の高堂玲子さんは語ります。

森のおもちゃ図書館では定期的にボランティアの受け入れを行っています。初参加の方も多く、どなたでもご参加いただけます。楽しくできる子どものサポートをしてみませんか？(ボランティアに関するお問い合わせは、仙台市ボランティアセンターまで)



布絵本を読みきかせする様子



手作りの布のおもちゃ

手芸作品が子どもたちの遊び道具になるうれしさ

仙台市ボランティアセンター主催の夏のボランティア体験会。7月28日(水)、森のおもちゃ図書館には、中学生から社会人まで約10名が参加し、スタッフがデザインした、鎖状につなげて遊ぶぬいぐるみ(チェーンモチーフ)を作成しました。

高校3年生の参加者は、中学生の頃老人ホームでボランティア活動をした経験があったため、今度は子ども向けの活動をしてみたいと思い訪れたといえます。中学の家庭科以来という手芸に、懸命に取り組んでいました。布で絵本を作る発想とその完成度に驚いたそうです。

社会人の参加者は、コロナ禍で自分に何かできることはないかと考えるようになり、元々好きだった手芸でボランティアができる森のおもちゃ図書館を知り、訪れたそうです。楽しみながら役に立てることがうれしいといえます。布の立体的な質感が心地よく、子どもたちにも喜んでもらえそうと期待しています。



夏のボランティア体験会の参加者で作成したチェーンモチーフ



体験会当日の様子

仙台市ボランティアセンターからのお知らせ

【2021企業の社会貢献・CSRセミナー】 参加企業募集

企業の社会貢献や地域貢献活動の現状や事例について理解を深めるとともに、実際の活動状況についての情報共有や企業の担当者同士の交流を目的に開催します。

「うちの会社でこんなことができるんだけど…」 「地域ではどんな支援が求められているの？」 など、お互いに情報交換をしながら、取り組みのヒントを得る機会として、ぜひご参加ください!

内容 ●オンライン講演「地域も社会もWinWinに
～全国の事例から社会貢献活動の極意を学ぶ～」
●情報交流会

講師 特定非営利活動法人岡山NPOセンター
CSR相談員 小桐 登 氏

日時 10月14日(木) 13:30～15:30

会場 仙台市福祉プラザ1階 プラザホール

参加方法 WEB(zoom参加)

申込方法 仙台市ボランティアセンターまでお問い合わせください
TEL 022-262-7294

活動のヒントや
きっかけづくりに!



※令和2年度のセミナーの様子

【フードドライブ支援事業】 企業の社会貢献活動として フードドライブに取り組みませんか?

企業等が職場においてフードドライブを実施する場合に食品を集める回収用のボックス等を無料で貸し出すフードドライブ支援事業を実施しています。

職場や自宅等で余っている食品を持ち寄り、フードバンク団体へ寄付することで、食品ロスの削減に貢献することができます。

申込方法 ガイドラインをご確認いただき、所定の申請書を郵送、ファックス、電子メールのいずれかにより、申込先宛てに提出してください。ガイドライン及び申請書は仙台市社会福祉協議会ホームページからダウンロードできます。

申込先 仙台市ボランティアセンター
TEL 022-262-7294

URL <http://www.shakyo-sendai.or.jp/n/archives/38633>

